

平成 30 年度

推薦入試学生募集要項

- 推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない推薦入試）
人間発達文化学類 スポーツ・芸術創造専攻
行政政策学類
経済経営学類
夜間主コース（現代教養コース）
共生システム理工学類

- 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す推薦入試）
人間発達文化学類 人間発達専攻・文化探究専攻



〒960-1296
福島市金谷川1番地
☎024-548-8064（入試課）
<http://www.fukushima-u.ac.jp/>

福島大学
スマートフォン対応サイト



目 次

ページ

Ⅰ	アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	1
Ⅱ	推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない推薦入試）	6
	1. 募集人員等	
	2. 出願資格	
	3. 推薦要件	
	4. 選抜方法	
	5. 採点・評価	
	6. 試験日程・時間割	
	7. 出願手続	
	8. 合格者発表	
	9. 入学手続	
	10. 入学料・授業料の減免について	
	11. 長期履修学生制度について（夜間主コースのみ）	
Ⅲ	推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す推薦入試）	16
	1. 募集人員等	
	2. 出願資格	
	3. 推薦要件	
	4. 選抜方法	
	5. 採点・評価	
	6. 試験日程・時間割	
	7. 出願手続	
	8. 合格者発表	
	9. 入学手続	
	10. 入学料・授業料の減免について	
Ⅳ	障害等のある入学志願者の事前相談	22
Ⅴ	合格しなかった者の取り扱い	22
Ⅵ	入試情報の公開（開示）について	22
Ⅶ	入学志願者の個人情報保護	23
Ⅷ	東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について	24
	大学案内図	本要項末

この要項には、以下のものが添付されているので確認してください。

- ・入学志願票, 写真票, 受験票（推薦入試Ⅰ 各学類別）
- ・入学志願票, 入学志願受付票, 写真票, 受験票（推薦入試Ⅱ）
- ・志願理由書（各学類別）
- ・推薦書（推薦入試Ⅰ, 推薦入試Ⅱ）
- ・実技実績調査書（人間発達文化学類 スポーツ・芸術創造専攻用）
- ・検定料収納証明書貼付票・検定料免除申請書
- ・受験票等返送用封筒
- ・宛名票（シール）
- ・出願用封筒

I アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

◎福島大学アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

福島大学では、「地域と共に歩む人材育成大学」として長年にわたり地域社会で活躍できる人材を育成してきました。さらに、東日本大震災・原発事故からの学びを活かして「新たな地域社会の創造」に貢献でき、人口減少や少子高齢化、資源・エネルギー問題などの「21世紀的課題」が加速する福島をフィールドに、現代社会にイノベーションをもたらすことのできる人材を育成しようとしています。本学ではこうした理念を実現するために、大学での専門的な学習に必要な基礎学力と、現代社会への問題意識とその解決への意志を持ち、コミュニケーション能力や協働的な問題解決能力、建設的な批判的思考力、創造力の向上を目指す学生を広く求めます。

2. 入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験は学類ごとに実施し、各学類のアドミッション・ポリシーに適合した人材としての資質を総合的に判断します。

◎人文社会学群

〔人間発達文化学類〕

1. 人間発達文化学類の教育目標と求める学生像

人間発達文化学類では、教員をはじめ地域や企業などで活躍できる広義の教育者（人間発達支援者）を目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・人間および文化に対し、それらの仕組みや相互関係について「理解し探究する力」
- ・主体的に現実にふれ、働きかける「人や文化と関わる力」
- ・課題を発見し知識や技術を通して「解決し創造する力」
- ・上記3つを基礎として、全体として人間の発達を支援し文化を育んでいく「教える力」

人間発達文化学類には、人間発達専攻、文化探究専攻、スポーツ・芸術創造専攻の3つの専攻があります。各専攻が求める学生像は次の通りです。

- ・人間発達専攻では、教育の現実や歴史に対する知見や、確かな心理学的知見、乳幼児期から生涯にわたる人間の発達、特別な教育的ニーズ等に強い関心があり、将来、関連分野で子どもたちを支援する職業等につきたいと考えている学生を求めます。
- ・文化探究専攻では、人間の発達にかかわる言語文化、地域文化、生活科学、数理科学について、それぞれの学問内容を深めるとともに、領域相互の関連性や応用性を追求し、その成果を教育現場や社会の中で生かしていこうとする学生を求めます。
- ・スポーツ・芸術創造専攻では、スポーツ・芸術分野や教育現場において広く活躍する専門家を育成することをめざして、これらの分野に強い関心を持ち、高い技能と深い探求心をもつ学生を求めます。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

人間発達支援者には、人間に対する理解だけでなく、高校で学ぶ人文科学や社会科学、生活科学、数理科学、芸術、スポーツなどの広い知識が必要です。大学において新たな知識や技術を身につけるために、以下に挙げる知識・技能・関心を有している学生を求めます。

- (1) 高校時代までの基礎的な学力・実技能力
- (2) 得意分野に関する優れた理解・技能（以下のうち1つ以上）
 - ・得意な教科や領域の意味内容をよく理解している。
 - ・スポーツにおける優れた実績を有している。
 - ・音楽や美術において優れた技量を有している。
- (3) 教育・人間・文化・社会への問題意識、及び人間発達支援に対する強い意志

〔行政政策学類〕

1. 行政政策学類の教育目標と求める学生像

行政政策学類では、21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・法・地域・行政・社会・文化等の研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- ・国・地域・社会における諸問題を自ら発見し、調査・分析する能力
- ・発見し、調査・分析した諸問題につき、解決する応用的能力
- ・修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

行政政策学類では、2年生の前期（第3 Semester）から、法学専攻、地域と行政専攻、社会と文化専攻のいずれかに所属することになります。各専攻は、次のような基礎的・専門的な知識及び能力を身につけた人材の育成を目標としています。

- ・法学専攻：リーガルマインド（「法的な思考」）を身につけた上で、市民としての政治参加、裁判員制度、企業法務、公務員としての法的実践などに適応し、国および地域の法的問題を自ら発見・解決することができる。
- ・地域と行政専攻：政治・行政・社会にかかわる研究分野の基礎的知識と、地域の固有性と多様性に対する調査能力・思考力を身につけたうえで、地域社会の諸問題の解決に向けて積極的に貢献することができる。
- ・社会と文化専攻：社会学、歴史学、教育学、文化研究等についての専門的知識と学際的知識、及び調査・情報解読能力を身につけた上で、現代社会、地域社会、歴史理解、異文化理解、国際交流等にかかわる問題をみずから発見・考察し、その解明・解決の方向性を見出すことができる。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すための能力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

- (1) 高校時代までの基礎的な学力（以下のうち1つ以上）
 - ・国語、地歴公民、理科、数学、外国語について、修学に必要な知識を有している。
 - ・上記科目のうち、いずれか3科目について、優れた知識を有している。
- (2) 現代社会や地域の諸課題に関する理解力・思考力・分析統合力・表現力（以下のうち1つ以上）
 - ・読書や論理的な文章を書く習慣に基づく長文の読解力・要約力
 - ・政治・経済、社会的な問題などに関心を持ち、深く考察する態度
 - ・意見交換によって解決策を考えだすための発言力或いは論点整理力

推薦入試では、上記の(1)・(2)に加え、以下の点を評価します。

- ・新しい地域社会づくりに関心を持ち、地域社会の発展に貢献しようとする意欲、及び流動的な社会の変化に対応し、過去に例のない課題に対して果敢に挑む意欲

〔経済経営学類〕

1. 経済経営学類の教育目標と求める学生像

経済経営学類では、現代社会で起こっている様々な問題に関心を持ち、それらを経済・経営の視点でとらえ、社会で実践するために、卒業までに次の3つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。

- ・経済学士として経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識を適切に応用し実践する力、問題を解決する力
- ・幅広い教養と経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識に基づいて、現実を分析し、論理的に思考する力
- ・職業人、生活者として自立し、社会的・倫理的な観点から自らを律する力

経済経営学類では、2年生の後期（第4セメスター）から、経済分析専攻、国際地域経済専攻、企業経営専攻の3つの専攻のいずれかに所属することになります。各専攻は、次のような基礎的・専門的な知識と能力を身につけた人材の育成を目標としています。

- ・経済分析専攻：ミクロ・マクロ経済学での諸議論を通して経済のしくみを体系的に理解し、得られた知識を金融・公共経済をはじめとした経済システムの分析とそのあり方に関する実践的な考察に応用することができる人材
- ・国際地域経済専攻：経済学的素養に基づく理論的・歴史的・政策的見地に加えてグローバルな知識を身につけて今日の経済社会を理解し、国際社会と地域社会の課題に理論的・実践的に取り組むことができる人材
- ・企業経営専攻：企業活動に対し、外部環境を踏まえて定量的・定性的に分析するための専門的知識を有し、それを応用して企業およびその他組織における適切な意思決定ができる基礎的力量を身につけている人材

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

現代社会で起こっている様々な問題を経済・経営の視点でとらえる力および社会で実践する力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1) 高校時代までの基礎的な学力

- ・国語、外国語、地歴公民、数学、理科について、修学に必要な知識を有している学生
- (2) 文章を正確に理解する読解力、文章内容に基づき論点・課題を論理的に考察する思考力、自らの考えを的確にまとめる知識活用力・表現力を有している学生
- (3) 現代社会で起こっている様々な問題に対する関心・意識と勉学意欲を持つ学生
- (4) 得意分野に関する優れた学力・実績（推薦入試及び専門学科・総合学科卒業生入試に該当）を有している学生

推薦入試及び専門学科・総合学科卒業生入試では、上記の(1)・(2)・(3)に加え、以下の点を評価します。

・推薦入試（以下のうち1つ以上）

- 行動力や創造力に基づいた、特記すべき活動歴を有していること
- 簿記・情報関連に対する優れた知識、ないし関連資格を有していること
- 英語等の外国語に関する優れた知識、ないし関連資格を有していること

・専門学科・総合学科卒業生入試

- 簿記、情報等の実践的科目に対する優れた知識を有していること

〔夜間主コース（現代教養コース）〕

1. 現代教養コースの教育目標と求める学生像

現代教養コースでは、現代社会が直面する問題を解決するための“新しい教養”を身につける意欲をもち、卒業までに次の4つの力を身につけたいと考える社会人を学生として受け入れます。

- ・ 職業に関わる専門的知識・技能の修得を望む学生
- ・ 現代社会を理解し、生活課題・地域社会が直面する課題を解決する社会人としての教養を求める学生
- ・ 人間性を探求する生きがいとしての教養を求める学生
- ・ 働きながら、生活や職業という実体験をもとにして、主体的に学習を深めることを望む学生

現代教養コースには、文化教養モデル、コミュニティ共生モデル、法政策モデル、ビジネス探究モデルの4つのモデルがあります。各モデルが求める学生像は次のとおりです。

- ・ 文化教養モデルでは、教養を広げ、文化を体系的、探究的に学びたい学生を求めます。たとえば「子育てや家庭教育、家族の問題についてきちんと考えてみたい人」「地域や文化、ことば、国際理解、数理科学などの問題に関心のある人」「健康やスポーツに関心がある人」「芸術的教養を高めてみたいと考えている人」です。
- ・ コミュニティ共生モデルでは、地域コミュニティの抱える問題に対し、その解決に貢献するための学問的基礎知識を身につけたい学生を求めます。たとえば「まちづくりや福祉活動などに携わっている人、関心のある人」「将来、地域社会でボランティアやNPO活動などへの参加を考えている人」「地域社会のリーダーを目指している人」です。
- ・ 法政策モデルでは、複雑で多様な地域社会の現象に的確に対処できる、法的な思考・解決能力の修得を望む学生を求めます。たとえば「公務員をはじめとした公共部門の仕事に就いている方で法律知識を身につけたい人」「裁判員制度や司法改革により法律が身近なものとなる中で、市民としての幅広い教養的法学を学びたいと考えている人」「将来、法律の専門職、資格取得を意識し、その基礎的法律知識を身に付けたい人」です。
- ・ ビジネス探究モデルでは、現代社会で起こっている様々な問題に関心をもち、それらを経済・経営の視点でとらえる能力をもつことで、社会での実践力を養いたいと考える学生を求めます。たとえば「企業や役所等に勤める方で、業務のうえで経済・経営について学びたいと考えている人」「高校卒業後、働きながら経済・経営について学びたいと考えている人」「地域の問題に関心をもち、これを経済・経営の視点で捉えたいと考えている人」です。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

職業に関わる専門的知識・技能、および、現代社会を理解し、生活課題・地域社会が直面する課題を解決する社会人としての教養や、人間性を探求する生きがいとしての教養を、働きながら身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

- (1) 大学での学びの基盤となる基礎的な学力
- (2) 夜間主コースにて何を学ぶのかに関する鮮明な目標と課題意識
- (3) 自己の目標に向かって努力する姿勢
- (4) 働きながら修学を続けることに対する強い意志

◎理工学群

【共生システム理工学類】

1. 共生システム理工学類の教育目標と求める学生像

人間について知りたい、ものづくりや企業経営に興味がある、自然や環境を調べたい、の少なくともどれか一つに当てはまり、人間社会の抱える問題に関心がある皆さんの入学を歓迎します。本学類での学習は、高校までの数学・理科を基礎に発展させますが、変化を続ける人間社会とその課題を理解する力も必要です。そのため、この学類への入学と勉学に強い意欲を持つ人を対象に、本学で学ぶために必要な基礎学力、柔軟な思考力、分析・観察力を評価し、入学者を選抜します。なお、入学の1年後には専攻配属が行われます。

各専攻の教育は以下のような特色をもっています。

[人間支援システム専攻]

人理解や人間支援又はそれらの基礎となる分野に強い関心があり、卒業後、人間支援技術分野で活躍したいと考えている人、特に、心理学や生理学などの生体システム科学、情報工学や機械・電気・電子工学などを基礎とする人間支援の技術開発に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっている人理解と人間支援に必要な基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

[産業システム工学専攻]

ものづくりが好きで企業経営にも強い関心があり、卒業後、製造業、起業家、弁理士などの産業支援分野で活躍したいと考えている人、特に、化学工学、材料工学などを基礎とする環境負荷の少ないものづくり技術や、情報工学、経営工学、数理科学およびそれらを基礎とする省資源・循環型社会システムの構築に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっているものづくりに必要な基礎・専門科目と産業社会システムに関する基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

[環境システムマネジメント専攻]

水資源などを中心とした自然資源の確保・保全に強い関心があり、卒業後、環境管理者、環境計量士、公害防止者として活躍したいと考えている人、環境分析化学、浄化学、生態学や地域計画、流域管理計画などを基礎とする環境システムの学習に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっている環境の科学と保全・管理に必要な環境システムに関する基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

入学試験の種類

本学類に入学していただくには、以下の4種類の入試があります。

アドミッション・オフィス（AO）入試（募集人数 30人）

高等学校までの学習全般を含む総合問題、自ら設定した課題についてのポスターを用いた発表と口頭による質疑、志願理由書および調査書により、高等学校の基礎的な学力、科学的思考力のある人を選抜します。特に持続的な探求意欲と行動力のある人を期待します。

推薦入試（募集人数 20人）

小論文、面接、志願理由書および調査書により、基礎学力、理解力、論理的な思考能力と表現能力を持つ人を選抜します。調査書の全体の評定平均値が4.0以上の人を対象としており、高等学校の間に勤勉な学習を重ねた人を期待します。

3年次編入学（募集人数 若干名）

高等専門学校を卒業見込みの者を対象に、面接と提出書類（志願理由書、卒業研究概要、推薦書、調査書）により、志望する専攻で学ぶために必要な基礎的な学力をもち、専攻分野での学習意欲が高い人を選抜します。

一般入試（募集人数 前期日程80人、後期日程50人）

理科1科目および数学（前期）または数学（後期）の記述試験による個別学力検査、センター試験（5教科7科目）および調査書により、基礎的な科目を広く習得し、理系科目の柔軟な思考力と応用力がある人を選抜します。

Ⅱ 推薦入試 I (大学入試センター試験を課さない推薦入試)

1. 募集人員等

学類・専攻		入試区分・募集人員	1校で推薦できる人数	出願期間	試験日	合格者発表	入学手続
人間発達文化学類	スポーツ・芸術創造専攻	スポーツ 12名 芸術 8名 (音楽4名, 美術4名)	3名	11月1日(水) ～ 11月7日(火)	11月15日(水) 予備日 (スポーツに限る) 11月16日(木)	11月 24日(金)	12月 15日(金) ～ 22日(金)
行政政策学類	法学専攻 地域と行政専攻 社会と文化専攻	25名	制限なし		11月18日(土)	11月 30日(木)	
経済経営学類	経済分析専攻 国際地域経済専攻 企業経営専攻	A推薦 20名 B推薦 30名 C推薦 10名	3名		11月18日(土)	11月 30日(木)	
夜間主コース (現代教養コース)	人間発達文化学類 行政政策学類 経済経営学類	20名	3名		11月22日(水)	11月 30日(木)	
共生システム理工学類	人間支援システム専攻 産業システム工学専攻 環境システムマネジメント専攻	20名	制限なし		11月25日(土)	11月 30日(木)	

(注) 1. 所属専攻について

行政政策学類：所属専攻は、1年次後期に本人の希望を考慮して決定します。

経済経営学類：所属専攻は、2年次前期に本人の希望と入学後の成績に基づいて決定します。

夜間主コース：所属学類(モデル)は、1年次後期に本人の希望をもとに調整し、決定します。

共生システム理工学類：所属専攻は、1年次後期末に本人の希望と入学後の成績に基づいて決定します。

2. 1校で推薦できる人数について

人間発達文化学類と経済経営学類の「1校で推薦できる人数」については、1学類につき3名までとなります。入試区分ごとの人数ではありません。

※夜間主コース(現代教養コース)では、教員免許の取得はできません。

2. 出願資格(人間発達文化学類, 行政政策学類, 夜間主コース, 共生システム理工学類)

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 高等学校(特別支援学校(盲学校, 聾学校および養護学校を含む。))の高等部ならびに中等教育学校の後期課程を含む。)を平成30年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定により平成29年度中に高等学校を卒業または卒業見込みの者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了または修了見込みの者

出願資格（経済経営学類）

次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 高等学校（特別支援学校（盲学校、聾学校および養護学校を含む。）の高等部ならびに中等教育学校の後期課程を含む。）を平成29年3月以降に卒業または平成30年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定により平成28年4月以降年度の途中で高等学校を卒業または卒業見込みの者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を平成28年4月から平成30年3月までに修了または修了見込みの者

3. 推薦要件

志願する学類・入試区分のすべての推薦要件に該当する者のうち、学校長が責任を持って推薦し、合格した場合には入学することを確約できるものとしてします。

学類・専攻名		入試区分	推 薦 要 件
人間発達 文化学類	スポーツ・ 芸術創造専攻	スポーツ	(1) 調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者 (2) 次の種目において、優れた技能を有し、全国大会（国民体育大会、全国高校総合体育大会、全国高校選手権大会等の競技会）またはブロック大会に出場した者 陸上競技、体操競技、バレーボール、バスケットボール、サッカー、剣道、ダンス、テニス（ソフトテニスは含まない。)
		芸 術 (音楽)	(1) 調査書の全体の評定平均値が3.5以上で、受験する科目（音楽）の評定平均値が4.3以上の者 (2) 音楽において優れた技能を有する者 分野は、声楽、ピアノ、管弦打楽器（試験に持参できるものに限る。）、作曲、指揮とする
		芸 術 (美術)	(1) 調査書の全体の評定平均値が3.5以上で、受験する科目（美術）の評定平均値が4.3以上の者 (2) 美術において優れた技能を有する者 分野は特に限定しない
行政政策学類			(1) 調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者 (2) 現代社会の諸問題や地域の諸課題について関心がある者
経済経営学類※1		A推薦	(1) 調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者 (2) 出身学校において特記すべき活動歴を有する者 例) 課題研究（グループ研究を含む。）で優れた業績を作成した者。生徒会・部活動等において責任のある役割を経験した者。スポーツ・文化等の分野において活躍した者。各種の資格試験・検定試験等に合格した者。学外における社会活動に積極的に参加した者 (3) 学力・人物が優れている者

学類・専攻名	入試区分	推 薦 要 件
経済経営学類※1	B推薦	(1) 調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者 (2) 以下の検定試験のいずれかに合格している者 ① 日本商工会議所主催 簿記検定試験1級または2級（なお、1級に合格している者は推薦書裏面の資格記入欄に朱記すること。） ② (公財)全国商業高等学校協会主催 簿記実務検定試験第1級試験 ③ (公財)全国商業高等学校協会主催 情報処理検定試験第1級試験 ④ 経済産業省認定（情報処理推進機構 情報処理技術者試験センター実施）基本情報技術者試験 (3) 学力・人物が優れている者
	C推薦	(1) 調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者 (2) 以下の語学検定試験のいずれかにおいて、一定の基準に達している者 ① (公財)日本英語検定協会主催 実用英語技能検定（英検）2級以上（なお、準1級以上に合格している者は推薦書裏面の資格記入欄に朱記すること。） ② (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会主催 TOEIC 500点以上（なお、700点以上の点数を取得している者は推薦書裏面の資格記入欄に朱記すること。）（TOEICのIP（Institutional Program）は除く。） ③ 国際教育交換協議会主催 TOEFL iBT52点以上（なお、68点以上の点数を取得している者は推薦書裏面の資格記入欄に朱記すること。） ④ (公財)ドイツ語学文学振興会主催 ドイツ語技能検定試験（独検）4級以上 ⑤ (公財)フランス語教育振興協会主催 実用フランス語技能検定試験（仏検）5級以上 ⑥ (一財)日本中国語検定協会主催 中国語検定試験（中検）準4級以上 ⑦ ロシア語能力検定委員会主催 ロシア語能力検定試験4級以上 ⑧ (公財)日本スペイン協会主催 スペイン語技能検定試験5級以上 (3) 学力・人物が優れている者
夜間主コース （現代教養コース）	/	(1) 調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者 (2) 就職が内定している者、または入学後に就業しながら修学する意思を確約できる者のいずれか※2 (3) 学力・人物が優れている者
共生システム理工学類	/	(1) 調査書の全体の評定平均値が4.0以上の者 (2) 本学類のアドミッション・ポリシーに適合し、本学類で学ぶ強い意欲を持っている者

※1 推薦する場合の留意点：試験科目に英語は課していませんが、経済経営学類では英語を含む語学教育を重視したカリキュラムを実施しているため、推薦される者にはその点への留意が必要です。

※2 就職とはアルバイト、パート等を含み、労働時間が週平均20時間以上のものに限ります。

(注) 国公立大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)へ出願することができるのは、1つの大学・学部(学類)の学科・課程・専攻等に限り、1つに限ります。

したがって、本学において同一人物が「推薦入試Ⅰ」および「推薦入試Ⅱ」の両方に出願することはできません。

4. 選抜方法

大学入試センター試験を課さずに、以下の方法によって行います。

なお、出願書類は判定の基礎資料として利用します。

学類・専攻名		入試区分	選 抜 要 件
人間発達 文化学類	スポーツ・ 芸術創造専攻	スポーツ	小論文(100点満点)、面接(実技を含む。100点満点)、実技実績評価(100点満点)の成績の総合点により判定します。ただし、小論文および面接の得点が一定の点数(30点)に達しない者は、合格者とはなりません。また、1種目の合格者数は募集人員の半数を超えないものとします。
		芸 術 (音楽・美術)	小論文(100点満点)、面接(実技実績、出願時に提出した作品の評価を含む。100点満点)、実技試験(100点満点)の成績の総合点により判定します。ただし、小論文および面接、実技試験の得点が一定の点数(30点)に達しない者は、合格者とはなりません。
行政政策学類			小論文(100点満点)、面接(50点満点)の成績の総合点により判定します。
経済経営学類		A推薦	小論文(100点満点)、面接(100点満点)の成績の総合点により判定します。
		B推薦	小論文(100点満点)、面接(100点満点)、朱記要件加算(50点)の成績の総合点により判定します。
		C推薦	小論文(100点満点)、面接(100点満点)、朱記要件加算(50点)の成績の総合点により判定します。
夜間主コース (現代教養コース)			面接(100点満点)の成績に基づいて判定します。
共生システム理工学類			小論文(40点満点)、面接(60点満点)の成績の総合点により判定します。

5. 採点・評価

小論文・面接・実技検査（注 人間発達文化学類については、11ページの実技検査の持参品も必ず参照すること。）

学類・専攻名		入試区分	小論文	面接・実技検査
人間発達文化学類	スポーツ・芸術創造専攻	スポーツ	スポーツや健康についての資料を与え、1,000字程度で論述させ、スポーツや健康に対する論理的思考力を総合的にみます。	<p>面接：スポーツに関する基礎的な知識と、生涯にわたってスポーツに携わっていくことへの意欲や関心を総合的にみます。また、実技検査を行い、専門種目の技能を評価します。</p> <p>実技実績評価：競技成績に基づいて評価します。</p>
		芸術 (音楽・美術)	芸術や文化についての資料を与え、1,000字程度で論述させ、論述能力をみるとともに、芸術・文化に対する知識や関心などを総合的にみます。	<p>実技試験：音楽は、専門として出願した分野が演奏（声楽、ピアノ、管弦打楽器）の場合は、あらかじめ出願者が準備した任意の曲（複数も可）を演奏し（声楽、ピアノは暗譜）、作曲および指揮の場合は、和声課題（四声体）を解答させます。その結果をもとに、広い観点から、音楽性、技術性、芸術性、可能性などを判断します。</p> <p>美術は、以下の3問の中から出願時にあらかじめ受験者が1問を選択します。</p> <p>① 素描（鉛筆または木炭によるデッサン） 形態把握力、質感表現力、色彩感覚、構成力等を含めた総合的な表現力をみます。</p> <p>② デザイン（平面構成） 発想力、計画性、構成力、技巧性、色彩感覚等を含めた総合的な表現力をみます。</p> <p>③ 立体造形（塑造） 構築性、質感表現力、量感表現力、発想力等を含めた総合的な表現力をみます。</p> <p>面接：提出資料に基づいて、過去の実技実績や芸術文化に関する活動内容等を評価し、専門領域への関心や意欲をみます。</p> <p>音楽は、過去の実技実績、すなわち演奏や発表の実績（演奏、発表、受賞）や専門分野に関する活動（サークル活動・社会活動など）の資料、作品や演奏の録音・録画などの記録の提出を求めます。</p> <p>美術は、過去の実技実績（制作した作品や展覧会、コンクール等での発表活動）や専門分野に関する活動（サークル活動・社会活動など）の資料（写真やコピー）提出を求めます。</p>

学類・専攻名	入試区分	小論文	面接・実技検査
行政政策学類		現代社会の諸問題や地域における諸課題についての資料を示し、それに関して800～1,000字程度で論述させ、資料を正確に理解し、知識や問題意識を的確に論述することができるかを総合的にみます。	志願理由書をもとに、志望動機および入学意志が明確か、勉学意欲が旺盛か、現代社会の諸問題や地域の諸課題に強い関心と深い知識があるか、説明能力があるかを総合的にみます。
経済経営学類	A推薦 B推薦 C推薦	一定の素材を与え、それに関連して1,200字以内で論述させ、読解力、思考力、表現力等を総合的にみます。	推薦書、志願理由書に基づいて質問を行い、問題意識や勉学意欲を総合的にみます。
夜間主コース (現代教養コース)		—————	推薦書、志願理由書に基づいて質問を行い、問題意識や勉学意欲等を総合的にみます。
共生システム理工学類		資料に基づき論述させ、理解力、思考力、表現力等を総合的にみます。	面接により、基礎学力、積極性、理工学的社会問題への関心、コミュニケーション能力等を評価します。

実技検査の持参品（人間発達文化学類）

入試区分	持参品
スポーツ	<p>運動着および次に示すもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技：スパイクシューズ（ピン9mm以下）・スローイングシューズを持参しても構いません。 ・体操競技：体操競技に適した用具・服装 ・バレーボール：屋内用運動靴 ・バスケットボール：屋内用運動靴 ・サッカー：スパイクおよび屋内用運動靴 ・剣道：竹刀、剣道具 ・ダンス：屋内用運動靴 ・テニス：ラケット、テニスシューズ
芸術 (美術)	<ul style="list-style-type: none"> ・素描：鉛筆デッサンの場合…鉛筆、消し具、カッターナイフ 木炭デッサンの場合…木炭、消し具、パン、ガーゼ、芯抜き ・デザイン：鉛筆、消し具、カッターナイフ、紙きりハサミ、ポスターカラーまたはアクリルガッシュ、筆、パレット、三角定規1組、直定規（目盛りつき）、コンパス ・立体造形：鉛筆、消し具、カッターナイフ、粘土ベラ

6. 試験日程・時間割

学類・専攻名		入試区分	試験日	試験科目等	試験時間
人間発達 文化学類	スポーツ・ 芸術創造専攻	スポーツ	11月15日(水)	小論文	9:00~10:30
				実技	11:00~12:30 終了予定
				面接	13:30~17:00 終了予定
			11月16日(木) (予備日)	面接	9:00~17:00 終了予定
		芸 術 (音楽・美術)	11月15日(水)	小論文	9:00~10:30
				実技	11:00~12:30 終了予定
面接	13:30~17:00 終了予定				
行政政策学類			11月18日(土)	小論文	10:00~11:30
				面接	12:30~17:00
経済経営学類		A推薦 B推薦 C推薦	11月18日(土)	小論文	9:00~10:30
				面接	11:00~17:00
夜間主コース (現代教養コース)			11月22日(水)	面接	集合時間については、受験票送付の際にお知らせします。
共生システム理工学類			11月25日(土)	小論文	10:00~11:30
				面接	13:00~17:00

試験場は福島大学（福島市金谷川1番地）です。

本要項末の大学案内図を参照してください。試験室および控室等については、試験当日、受験に関する掲示板に掲示します。

7. 出願手続

(1) 出願期間

平成29年11月1日(水)～11月7日(火) 午後5時まで

(2) 願書提出先


福島大学入試課 〒960-1296 福島市金谷川1番地 ☎024-548-8064

(3) 出願方法

入学志願者は、次の書類を取り揃え、この要項に添付した出願用封筒により、必ず書留速達にして郵送してください。出願期間を過ぎた場合は受理できません。郵送期間を十分考慮して早めに送付してください。ただし、平成29年11月6日(月)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理します。

なお、本学所定の封筒以外で郵送する場合は、「〇〇（志願する学類名）学類推薦入試願書在中」と朱書し、夜間主コース（現代教養コース）の志願者は「夜間主コース（現代教養コース）推薦入試願書在中」と朱書し、必ず書留速達にしてください。

持参の場合、入試課の窓口受付時間は平日の午前9時から午後5時までです。

出願に必要な書類	摘 要
1. 入学志願票, 写真票, 受験票	本学所定の用紙 写真：出願前3か月以内に撮影したものを指定の箇所に貼付してください。 (上半身, 正面, 脱帽, 縦4cm×横3cm)
2. 志願理由書*	本学所定の用紙 志願者本人が作成したもの。
3. 推薦書*	本学所定の用紙 出身学校長が作成したもの。
4. 調査書	出身学校長が作成し厳封したもの。
5. 実技実績調査書* および添付書類 (人間発達文化学類のみ)	本学所定の用紙 出身学校長が作成したもの。添付資料は、実技実績調査書裏面の記入要領を参照してください。
6. 検定試験関係書類 (経済経営学類B, C推薦のみ)	指定された検定試験の合格証等の写し
7. 検定料収納証明書貼 付票	「検定料収納証明書貼付票」裏面の「検定料支払方法のご案内」を参照の上、人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類、共生システム理工学類の場合、検定料17,000円、夜間主コースの場合、検定料10,000円を下記の期間内に払い込んでください。(払込手数料が別途必要です) 【払込期間】 平成29年10月30日(月)～11月7日(火) 16:30まで (期間外は払い込みできません) 「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り、「検定料収納証明書貼付票」に貼付した上で出願書類に同封してください。 入学願書を受理した後は、いかなる理由があっても検定料は返還できません。 ※検定料免除について 本学では、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故ならびに平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し、被災受験者の進学機会の確保を図るために、平成29年度に行われる全ての入試において、検定料免除の特別措置を行います。 <u>免除の条件については24ページの「 東日本大震災(原発事故含む)および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について」を確認してください。</u>
8. 受験票等送付用封筒	本学所定の封筒 志願者本人の郵便番号、住所、氏名を記入し、362円分の切手を貼付してください。
9. 宛名票(シール)	本学所定の用紙 合格通知を受けるところの郵便番号、住所、氏名を記入してください。

(4) 出願書類の記入上の注意

- ① 黒か青のボールペンまたは万年筆を用い、楷書で記入してください。ワープロも可。
(*は、本学ウェブサイト「入試情報-募集要項」(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/yoko.html>)からもダウンロードできます。)
- ② 誤って記入した場合は、誤記入の部分を二重線で消し訂正してください。
- ③ 出願書類について虚偽の記載があった場合は、入学を取り消すことがあります。

- (5) 志願票等出願書類の出願用封筒への封入について
「出願に必要な書類」のうち、大きいもの（前頁の1～5）については、書類を折って封筒に入れてください。
- (6) 出願状況について
本学ウェブサイトの「入試情報」(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>)に公開します。
- (7) 受験票について
該当試験日の前々日までに受験票が到着しない場合は、本学入試課に連絡し、必要な指示を受けてください。

8. 合格者発表

- ・人間発達文化学類

平成29年11月24日(金) 午前11時

- ・行政政策学類, 経済経営学類, 夜間主コース(現代教養コース), 共生システム理工学類

平成29年11月30日(木) 午前11時

本学中央広場の掲示板および本学ウェブサイトの「入試情報」(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>)に合格者の受験番号を掲示します。合格者には「合格通知書」および入学に必要な手続・諸会費等を記載した「入学手続の手引き」を送付します。

学校長には選考結果を文書で通知します。

なお、電話等による可否の問い合わせには応じません。

合格者発表当日は、インターネット回線が混雑するため、つながりにくい場合があります。

J R福島駅やJ R金谷川駅周辺で行われている可否電報受付等については、本学は一切関知していませんので十分注意してください。

9. 入学手続

- (1) 合格者は、下記期間に郵送により入学手続を完了してください。詳細は、合格者に送付する「入学手続の手引き」に記載します。

平成29年12月15日(金)～22日(金) 午後4時必着

指定期日までに入学手続を完了しない場合は、合格者としての権利を失います。

なお、入学手続完了後に他の国公立大学に入学手続をすることは認められません。本学の入学辞退許可を得ずに、他の国公立大学(※独自日程で入学者選抜を行う公立大学を除く。)の個別学力試験等を受験しても合格者とはなりません。

※公立大学協会のウェブサイト (<http://www.kodaikyo.org/nyushi>) 参照

- (2) 入学手続に際しては、入学料等を納付するほか、「入学手続の手引き」に記載の書類を提出しなければなりません。

原則として、推薦入試に合格した者は入学を辞退することは認められません。ただし、特別な事情により入学を辞退する場合には、平成29年12月22日(金)までに「推薦入試辞退願」(様式は任意)を出身学校長名により、理由を付して提出してください。

(3) 入学時の大学への納入金

入学料（予定額）	各学類	282,000円
	夜間主コース（現代教養コース）	141,000円

- (注) 1. 上記の入学料は予定額です。入学料の改定が行われた場合は、改定時から新たな金額が適用されます。
2. 入学手続完了後に、入学を辞退した場合（留年等により入学資格を満たせなくなった場合を含む。）は、入学料の返還はできません。

(参考) 1. 授業料について

授業料は、入学後に口座引落により納入していただきますので、入学時に納入する必要はありません。なお、授業料の金額（予定額）は次のとおりです。授業料の改定が行われた場合は、改定時から新たな金額が適用されます。

授業料（予定額）	各学類	前期分 267,900円 後期分 267,900円 合計（年額） 535,800円
	夜間主コース （現代教養コース）	前期分 133,950円 後期分 133,950円 合計（年額） 267,900円

2. 諸会費について

入学時に必要となる入学料以外の諸会費（「学生会」「後援会」「同窓会」の会費等）については「入学手続の手引き」送付の際にお知らせします。

10. 入学料・授業料の減免について

経済的理由により入学料または授業料の納入が困難で、かつ、高等学校等における学業成績が優秀と認められる場合には、選考のうえ入学料または授業料の減免が許可される制度があります。

11. 長期履修学生制度について（夜間主コースのみ）

職業等に従事することにより時間的制約のある学生のために、標準修業年限を超えた期間（「長期履修期間」という。）で修学できるという制度です。長期履修学生となった学生は、通常の修業年限において支払うべき授業料の総額を、あらかじめ認められた長期履修期間で分割してそれぞれの年度に支払うこととなります。例えば、修学意欲があるにもかかわらず、仕事等の都合により標準修業年限の4年間で単位を修得できない、または、時間的制約があり標準修業年限内では卒業論文が作成できないといった理由で、1年間留学した場合、5年間の授業料を支払わなければなりません。長期履修学生としてあらかじめ認められれば、5年間を一般学生が4年間で支払う授業料で修学することができます。

長期履修学生制度についての問い合わせ先

福島大学教務課

☎024-548-4070

Ⅲ 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す推薦入試）

1. 募集人員等

学類・専攻名		募集人員	1校で推薦できる人数	出願期間	試験日	合格者発表	入学手続
人間発達文化学類	人間発達専攻	30名	5名	平成29年 12月11日(月) ＼ 12月14日(木)	平成30年 1月17日(水) または 1月18日(木)	平成30年 2月2日(金)	平成30年 2月6日(火) ＼ 2月14日(水)
	文化探究専攻	25名					

次の6つの区分で募集します。

専攻・クラス		受 験 区 分	募集人員	
人間発達専攻		①小学校教員になることを強く希望する者	15人	30人
		②保育士資格を備えた幼稚園教員になることを強く希望する者	5人	
		③特別支援学校教員になることを強く希望する者	10人	
文化探究専攻	言語文化クラス	④小学校教員または中学校・高等学校教員（国語科，英語科）になることを強く希望する者	10人	25人
	地域生活文化クラス	⑤小学校教員または中学校・高等学校教員（社会科・地歴科・公民科，家庭科）になることを強く希望する者	10人	
	数理科学クラス	⑥理科あるいは数学に関心があり，小学校教員になることを強く希望する者	5人	

（注）入学後は，出願時に強く希望した受験区分の教員免許を取得することになります。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 高等学校（特別支援学校（盲学校，聾学校および養護学校を含む。）の高等部ならびに中等教育学校の後期課程を含む。）を平成30年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定により平成29年度中に高等学校を卒業または卒業見込みの者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了または修了見込みの者

3. 推薦要件

次のすべての推薦要件に該当する者のうち、学校長が責任を持って推薦し、合格した場合には入学することを確約できる者とします。

学類・専攻名		推 薦 要 件
人間発達 文化学類	人間発達専攻 文化探究専攻	(1) 学業、人物ともに優れ、小学校、中学校・高等学校の国語科、社会科・地歴科・公民科、家庭科、英語科、特別支援学校、幼稚園の教員になることを強く希望する者 (2) 平成30年度大学入試センター試験における試験教科・科目のうち、本学が課した教科・科目をすべて受験する者

(注) 国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、1つの大学・学部（学類）の学科・課程・専攻等に限りです。

したがって、本学において同一人物が「推薦入試Ⅰ」および「推薦入試Ⅱ」の両方に出願することはできません。

4. 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験の成績および面接の成績の総合点により判定します。なお、出願書類は判定の基礎資料として利用します。

5. 採点・評価

(1) 大学入試センター試験および個別学力検査等について

教科	大学入試センター試験の利用教科・科目名	個別学力検査等の科目	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等						
			国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	面接	配点合計
国 歴・公民 理 数 外	国（必須） 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、 現社、倫、政経、倫政経から1又は2 ＜選択①：「地歴」「公民」から1科目選択する場合＞ 物基、化基、生基、地学基から2及び物、化、生、 地学から1 又は 物、化、生、地学から2 ＜選択②：「地歴」「公民」から2科目選択する場合＞ 物基、化基、生基、地学基から2 又は 物、化、生、地学から1 数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 英、独、仏、中、韓から1 ＜選択①＞〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕 ＜選択②＞〔5教科7科目〕、〔5教科8科目〕、 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕	面 接	200	200 *100	200	100 *200	200	900	1,800

① 「地理歴史」、「公民」および「理科」について、指定された範囲の中で指定された科目数以上に受験している場合の判定に用いる科目は以下のとおりとなります。「理科」の「基礎を付した科目」については、2科目の受験で1科目とみなします。

a. 「地理歴史」、「公民」から2科目、「理科」の「基礎を付していない科目」から2科目を受験した場合、それぞれの「第1解答科目」の2科目と、「第2解答科目」のどちらか高

得点の1科目、合計3科目を判定に用います。

b. 「地理歴史」、「公民」から2科目、「理科」の「基礎を付した科目」から2科目、及び「基礎を付していない科目」から1科目を受験した場合、「地理歴史」、「公民」の「第1解答科目」と、その他の3科目から高得点の2科目、合計3科目を判定に用います。

- ② 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目の選択はできません。
- ③ 「理科」を2科目選択する場合は、「基礎を付した科目」と「基礎を付していない科目」で同一名称を含む科目を選択しても構いません。
- ④ 「外国語」の「英語」については、筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計得点を、配点（200点満点）に圧縮して利用します。リスニングを免除された場合および「英語」以外の科目の場合は、筆記（200点満点）の成績をそのまま利用します。
- ⑤ *印は、理科2科目を選択した場合の配点です。

(2) 面接について

面接場面での質疑応答を通して、受験生の理解力、思考力、表現力とともに、学校教育等に対する関心、意欲、適性等を総合的にみます。面接は、個人または集団で行います。面接時に資料を配付し、その資料に基づいて質疑応答を行うことがあります。

6. 試験日程・時間割

平成30年1月17日(水)か1月18日(木)のいずれか

- (注) 1. 試験日および集合時間等については、受験票送付の際にお知らせします。
2. 面接時には「大学入試センター試験受験票」も必ず持参してください。
3. 試験場は福島大学（福島市金谷川1番地）です。

本要項末の大学案内図を参照してください。試験室および控室等については、試験当日、受験に関する掲示板に掲示します。

7. 出願手続

(1) 出願期間

平成29年12月11日(月)～12月14日(木) 午後5時まで

(2) 願書提出先

福島大学入試課 〒960-1296 福島市金谷川1番地 ☎ 024-548-8064

(3) 出願方法

入学志願者は、次の書類を取り揃え、この要項に添付した出願用封筒により、必ず書留速達にして郵送してください。出願期間を過ぎた場合は受理できません。郵送期間を十分考慮して早めに送付してください。ただし、平成29年12月13日(水)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理します。

なお、本学所定の封筒以外で郵送する場合は、「人間発達文化学類推薦入試願書在中」と朱書し、必ず書留速達にしてください。

持参の場合、入試課の窓口受付時間は平日の午前9時から午後5時までです。

出願に必要な書類	摘 要
1. 入学志願票, 入学志願受付票, 写真票, 受験票	<p>本学所定の用紙</p> <p>写真：大学入試センター試験と同様のもの、または出願前3か月以内に撮影したものを指定の箇所に貼付してください。(上半身、正面、脱帽、縦4cm×横3cm)</p> <p>センター試験成績請求票：『<u>推薦</u>国公立推薦入試用』を指定の場所に貼付してください。</p> <p>もし、成績請求票（センター試験受験票）が届いていない場合には、成績請求票貼付欄に「成績請求票未着」と朱書きし出願してください。なお、成績請求票は到着次第提出してください。(郵送の場合は封筒に「推薦入試成績票在中」と朱書きのうえ、必ず書留速達としてください。)</p>
2. 志願理由書	<p>本学所定の用紙</p> <p>志願者本人が作成したもの。</p>
3. 推薦書	<p>本学所定の用紙</p> <p>出身学校長が作成したもの。</p>
4. 調査書	<p>出身学校長が作成し、厳封したもの。</p>
5. 検定料収納証明書 貼付票	<p>「検定料収納証明書貼付票」裏面の「検定料支払方法のご案内」を参照の上、検定料17,000円を下記の期間内に払い込んでください。(払込手数料が別途必要です。)</p> <p>【払込期間】</p> <p>平成29年12月9日(出)～12月14日(木) 16:30まで(期間外は払い込みできません。)</p> <p>「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り、「検定料収納証明書貼付票」に貼付した上で出願書類に同封してください。</p> <p>入学願書を受理した後は、いかなる理由があっても検定料は返還できません。</p> <p>※検定料免除について</p> <p>本学では、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故ならびに平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し、被災受験者の進学機会の確保を図るために、平成29年度に行われる全ての入試において、検定料免除の特別措置を行います。</p> <p>免除の条件については24ページの「<u>東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について</u>」を確認してください。</p>
6. 受験票等送付用封筒	<p>本学所定の封筒</p> <p>志願者本人の郵便番号、住所、氏名を記入し、362円分の切手を貼ってください。(注) 受験票は1月上旬に送付します。</p>
7. 宛名票（シール）	<p>本学所定の用紙</p> <p>合格通知を受けるところの郵便番号、住所、氏名を記入してください。</p>

(4) 出願書類の記入上の注意

- ① 黒か青のボールペンまたは万年筆を用い、楷書で記入してください。ワープロも可。
- ② 誤って記入した場合は、誤記入の部分を二重線で消し訂正してください。
- ③ 出願書類について虚偽の記載があった場合は、入学を取り消すことがあります。

(5) 出願状況について

本学ウェブサイトの「入試情報」(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>) に公開します。

(6) 大学入試センター試験受験教科・科目自己確認表

志望する学類（専攻）が課すすべての教科・科目を受験する予定か、各自で必ずチェックして出願してください。（注：確認の際には、17頁～18頁で受験を要する教科等をよく確認してください。）なお、この表は提出する必要はありません。

専攻	受験を要する教科名等	科目の選択方法	① 受験予定科目に✓をつける	② 必要科目が受験予定か✓をつけて確認する。	
人間発達専攻 文化探究専攻	国語	国語	<input type="checkbox"/>	1科目チェックしている <input type="checkbox"/>	
	地理歴史、 公民	世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B 現代社会 倫理 政治・経済 倫理、政治・経済	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	1科目チェックしている <input type="checkbox"/> →理科<選択①>を確認 2科目チェックしている <input type="checkbox"/> →理科<選択②>を確認	} から2 } から1 } または } から2 } から1
		理科	〔パターン1〕 物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎 物理 化学 生物 地学		
	〔パターン2〕 物理 化学 生物 地学		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	} から2 } から1 } または } から2 } から1	
	数学	数学Ⅰ 数学Ⅰ・数学A	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		} 1科目チェックしている <input type="checkbox"/> } 1科目チェックしている <input type="checkbox"/>
		数学Ⅱ 数学Ⅱ・数学B 簿記・会計 情報関係基礎	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	} 1科目チェックしている <input type="checkbox"/> } 1科目チェックしている <input type="checkbox"/>	
	外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		} 1科目チェックしている <input type="checkbox"/> } 1科目チェックしている <input type="checkbox"/>
	合計	<選択①> [5教科7科目] または [5教科8科目] <選択②> [5教科7科目], [5教科8科目], [6教科7科目] または [6教科8科目]	【最終確認】 この欄に、6つの✓が入っていますか？ ・入っている→出願に必要な科目を受験予定ですので、出願書類の確認欄に✓をつけてください。 ※出願してから受験科目が不足していることが判明すると、個別試験は受験出来ません。 ・入っていない→受験科目が不足しています。出願できません。もう1度確認してください。		

8. 合格者発表

平成30年2月2日(金) 午前11時

本学中央広場の掲示板および本学ウェブサイトの「入試情報」(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>) に合格者の受験番号を掲示します。合格者には「合格通知書」および入学に必要な手続・諸会費等を記載した「入学手続の手引き」を送付します。

学校長には選考結果を文書で通知します。

なお、電話等による合否の問い合わせには応じません。

合格者発表当日は、インターネット回線が混雑するため、つながりにくい場合があります。

J R福島駅やJ R金谷川駅周辺で行われている合否電報受付等については、本学は一切関知していませんので十分注意してください。

9. 入学手続

- (1) 合格者は、下記期間に郵送により入学手続を完了してください。詳細は、合格者に送付する「入学手続の手引き」に記載します。

平成30年2月6日(火)～14日(水) 午後4時必着

指定期日までに入学手続を完了しない場合は、合格者としての権利を失います。

なお、入学手続完了後に他の国公立大学に入学手続をすることは認められません。本学の入学辞退許可を得ずに、他の国公立大学（※独自日程で入学者選抜を行う公立大学を除く。）の個別学力試験等を受験しても合格者とはなりません。

※公立大学協会のウェブサイト (<http://www.kodaikyo.org/nyushi>) 参照

- (2) 入学手続に際しては、入学料等を納付するほか、「入学手続の手引き」に記載の書類を提出しなければなりません。

原則として、推薦入試に合格した者は入学を辞退することは認められません。ただし、特別な事情により入学を辞退する場合には、平成30年2月14日(水)までに「推薦入試入学辞退願」(様式は任意)を出身学校長名により、理由を付して提出してください。

- (3) 入学時の大学への納入金

入学料 (予定額)	282,000円
-----------	----------

(注) 1. 上記の入学料は予定額です。入学料の改定が行われた場合は、改定時から新たな金額が適用されます。

2. 入学手続完了後に、入学を辞退した場合（留年等により入学資格を満たせなくなった場合を含む。）は、入学料の返還はできません。

- (参考) 1. 授業料について

授業料は、入学後に口座引落により納入していただきますので、入学時に納入する必要はありません。なお、授業料の金額（予定額）は次のとおりです。授業料の改定が行われた場合は、改定時から新たな金額が適用されます。

授業料（予定額）	前期分	267,900円
	後期分	267,900円
	合計（年額）	535,800円

2. 諸会費について

入学時に必要となる入学料以外の諸会費（「学生会」「後援会」「同窓会」の会費等）については「入学手続の手引き」送付の際にお知らせします。

10. 入学料・授業料の減免について

経済的理由により入学料または授業料の納入が困難で、かつ、高等学校等における学業成績が優秀と認められる場合には、選考のうえ入学料または授業料の減免が許可される制度があります。

Ⅳ 障害等のある入学志願者の事前相談

障害（学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度）等のある入学志願者で、受験上および修学上の配慮を必要とする場合は、出願の1か月前までに入試課まで申し出てください。

Ⅴ 合格しなかった者の取り扱い

- (1) 推薦入試に合格しなかった場合に備え、本学および他の国公立大学の「一般入試」, 「専門学科・総合学科卒業生入試」の「前期－後期」の併願について、自由に2つまでの大学・学部（学類）に出願することができます。
- (2) 本学の「一般入試」, 「専門学科・総合学科卒業生入試」に出願する場合は、「福島大学一般入試学生募集要項」または「福島大学専門学科・総合学科卒業生入試学生募集要項」（11月中旬公表予定）を入手の上、改めて出願をしてください。その場合、大学入試センター試験の受験が必要です。
- (3) 本学の「一般入試学生募集要項」および「専門学科・総合学科卒業生入試学生募集要項」の請求方法は、本学ウェブサイトの「入試情報」（<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>）をご確認ください。

Ⅵ 入試情報の公開（開示）について

1. 試験問題等の公開について

(1) 試験問題

小論文については、問題および出題意図、面接については、資料を用いた場合、その資料を合格者発表後に公開します。（学内閲覧のみ）

また、人間発達文化学類および夜間主コースにおいては、面接の概要とねらいを公開します。（学内閲覧のみ）

(2) 合格者の最低点

合格者が10人以上の場合、合格者の最低得点を合格者発表時に合格者受験番号の掲示板および本学ウェブサイトの「入試情報」(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>)に公開します。

2. 入学試験個人成績等の開示について

入学試験個人成績、出願書類として提出された調査書を本学の定める方法により開示します。

(1) 開示期間 平成30年5月7日(月)～5月31日(木)

(2) 開示方法 平成30年4月上旬、本学ウェブサイトに掲載します。

<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/kaizi.html>

(3) 開示内容

ア. 個人成績について

人間発達文化学類推薦入試Ⅰ：小論文，面接，実技試験および実技実績評価の得点と総合点

行政政策学類推薦入試Ⅰ：小論文，面接の得点と総合点

経済経営学類推薦入試Ⅰ：(A推薦)小論文，面接の得点の総合点

(B, C推薦)小論文，面接，朱記要件加算の成績の総合点

夜間主コース推薦入試Ⅰ：面接の評点

共生システム理工学類推薦入試Ⅰ：小論文，面接の得点と総合点

人間発達文化学類推薦入試Ⅱ：大学入試センター試験の教科・科目ごとの得点（本学が判定に使用した教科・科目のみ），面接の得点および総合点

イ. 調査書について

「指導上参考となる諸事項」，「総合的な学習の時間の内容・評価」および「備考」欄の記載事項以外の部分の複写物（高校在学時に交付される通知書と同等のもの）

Ⅶ 入学志願者の個人情報保護

本学では、提出された出願書類や入学試験により個人情報を取得します。取得した個人情報は、下記の目的でのみ利用し、その保護に努めます。

○ 入学者選抜に関する業務（統計処理等の付随する業務を含む）に利用します。

○ 入学手続完了者にあつては、入学後の修学指導業務および学生支援業務、授業料徴収業務に利用します。また、入学料免除、授業料免除および各種奨学金に申請（応募）者にあつては、入学試験の成績等を当該免除者または奨学金貸与者の選考判定等に利用する場合があります。

なお、推薦入試Ⅱの志願者にあつては、センター試験の成績を取得する目的で、独立行政法人大学入試センター（以下、「大学入試センター」といいます。）へ、推薦入試Ⅰ・推薦入試Ⅱの合格者にあつては、国公立大学の分離分割方式による合格および追加合格決定業務を円滑に行うため、大学入試センターおよび併願先の国公立大学に個人情報の一部が送達されます。

また、入学者選抜に関する業務を円滑に進めるため、業務の一部を外部に委託することがあります。この場合、委託先に対して、必要な個人情報を提供しますが、委託先との間で適切な取り扱いに関する契約の締結をはじめ、適切な監督を行います。

Ⅷ 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について

本学では、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故、および平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し、被災受験者の進学機会の確保を図るために、平成29年度に行われる全ての入試において、検定料免除の特別措置を下記のとおり行います。

(1) 対象者

次のいずれかに該当すると認められた平成29年度の本学入学志願者については、検定料を全額免除します。

- ① 東日本大震災において指定された災害救助法適用地域で被災された方、または平成23年度以降に「激甚災害」に指定された災害により被災された方で、本人または主たる家計支持者が居住していた家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失の罹災と認定された方
- ② 東日本大震災において指定された災害救助法適用地域で被災された方、または平成23年度以降に「激甚災害」に指定された災害により被災された方で、主たる家計支持者が死亡または行方不明となった方
- ③ 東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて設定された「警戒区域」、「計画的避難区域」、「緊急時避難準備区域」、「特定避難勧奨地点」に平成23年3月11日時点で本人または主たる家計支持者が居住していた方で、これに伴い避難を余儀なくされた方

上記免除対象者の詳細については以下の表をご確認ください。

区 分	検定料免除の可否（可は○、否は×で示しています）				
	全 壊	大規模半壊	半 壊	流 失	一部損壊
①家屋の全・半壊	○				×
②主たる家計支持者が死亡または行方不明	主たる家計支持者				主たる家計支持者以外
	○				×
③原発事故による影響	警戒区域	計画的避難区域	緊急時避難準備区域	特定避難勧奨地点	それ以外の地域
	○				×

注：区域については、再編前の区域としています。

(2) 必要書類

検定料免除を申請するにあたって必要な書類は以下のとおりです。

① 検定料免除申請書（本要項に添付された指定の様式）

② 次に挙げる証明書のいずれか一つの写し

上記(1)①に該当する場合、「市町村長が発行する罹災証明書」

上記(1)②に該当する場合、「主たる家計支持者の死亡または行方不明を確認できる書類」

上記(1)③に該当する場合、「避難している（いた）ことが確認できる書類」（自己申立書でも可）

(3) 必要書類の提出方法と提出期間

出願期間中に出願書類と合わせて提出してください。

なお、検定料免除申請を行う場合は、出願時に検定料を払い込まないでください。また、「検定料収納証明書貼付票」の提出は不要です。

福島大学案内図

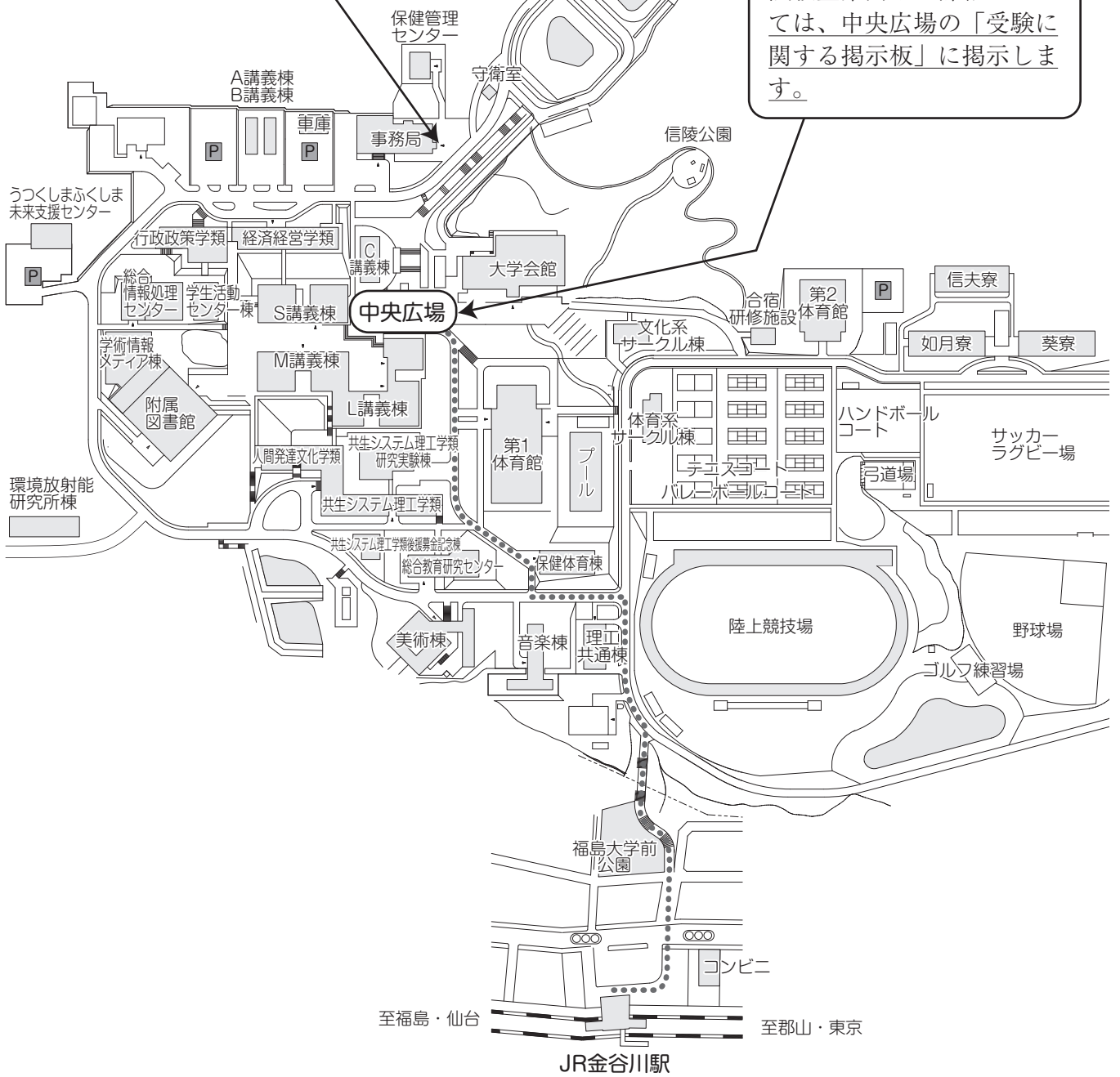


県道 至福島
福島・安達線 (旧国道4号) 至松川町

入試課 (1F)

受験に関する掲示板

試験室案内など詳細については、中央広場の「受験に関する掲示板」に掲示します。



かなやがわ
JR東北本線金谷川駅下車
中央広場まで徒歩約10分



国立大学法人

福島大学

Fukushima University